

おだか

第31号
2016
平成28年2月9日(火)

南相馬市
小高小学校
学校だより

豆まき集会

2月3日(水)立春の前の日に、今年の年男・年女の5年生が中心となって豆まき集会を行いました。節分の由来を聞いた後で、学年ごとに「心の中の退治したい鬼」を発表したり、「節分〇×クイズ・じゃんけん鬼退治ゲーム」を行ったりしました。最後に5年生がステ



ステージから豆まきをする5年生

ージの上から豆をまき、春を呼ぶ行事のしめくくりをしました。

これが、5年生が企画・運営した初めての活動となります。次年度に向けてしっかり全校生をリードしてくれました。

福島県学力調査の結果

第30号でお知らせした「県学力テスト」の続きになります。

生活・学習意識調査

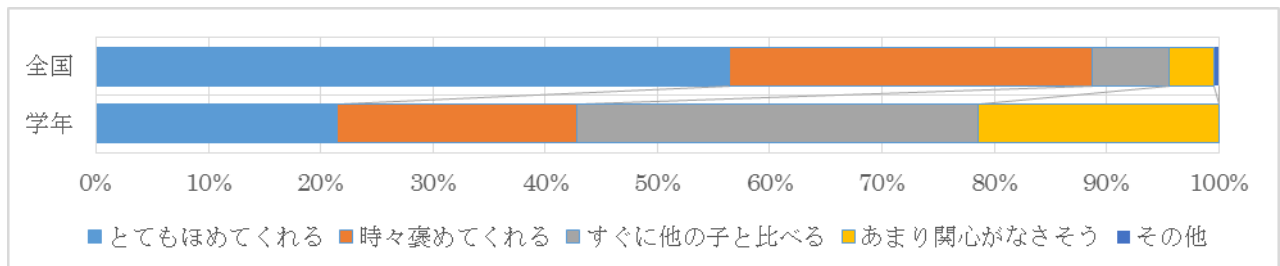
～「自己認識」における肯定値に課題～

生活・学習意識調査は、児童へのさまざまな質問を通して、文字通り生活や学習についての意識を調べます。「自己認識」「社会性」「学級環境」「生活・学習環境」の4つのカテゴリーに分けて、その肯定値を全国と比較しながら考察を行います。

調査人数は、14名です。学力とは反対に、4つのカテゴリーすべてが全国より下回る結果となりました。以下に具体的にお知らせします。

「自己認識」のカテゴリーでは、「友だちのささえ」「先生のささえ」の肯定値は全国とほぼ同じです。以下のように、「家族のささえ」「成功体験と自信」「充実と向上心」の値が低く、自分に自信がもてないのではないかと考えられます。

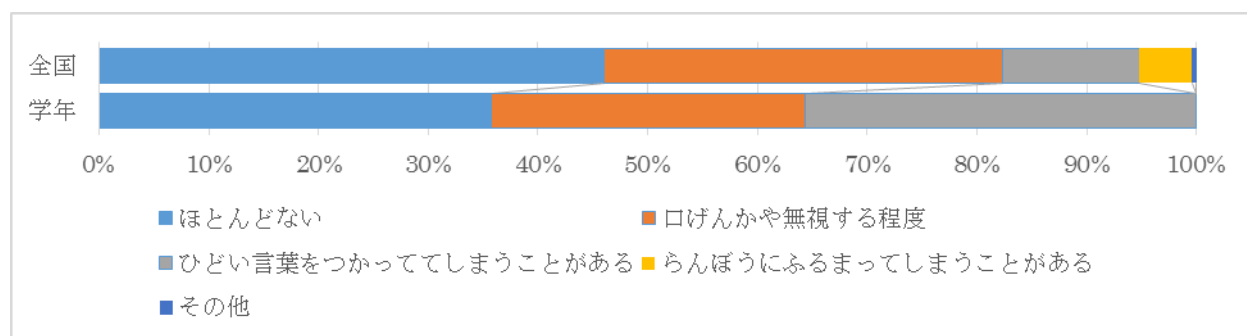
設問 家の方は、あなたが努力してがんばったとき、それをほめてくれますか、みとめてくれますか。



「社会性」の 카테고리では、「規範意識」の値が低いようです。設問の結果を見ると、自分から他人に働きかけることを苦手としている児童が多いように感じます。「近所の人に会ったときに挨拶する」「友だちの成功や失敗に共感し、言葉や体で伝える。」「自分の意見を積極的に発表する」などの値が、全国に比べ低いからです。

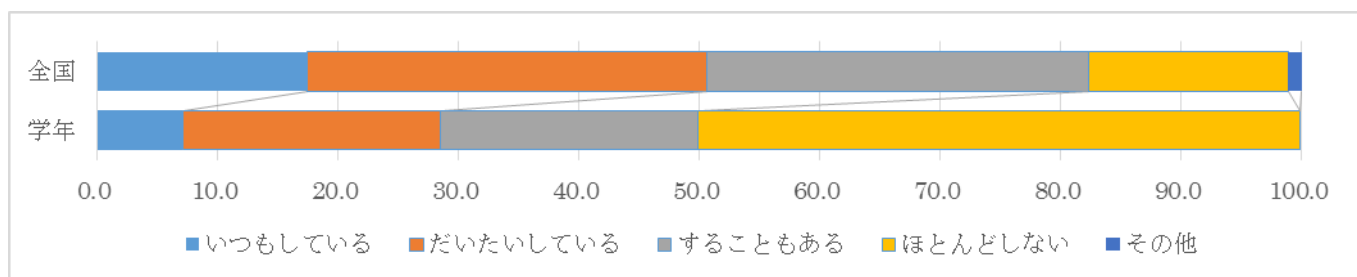
「学習環境」の 카테고리では、「いじめのサイン」に関する数値が低くなっています。冷やかされたり、乱暴を受けたりということが「一度もない」と回答している児童の割合が全国に比較が少ないことがわかりました。ただし、母体数が少ないため、全体傾向と一概にはとらえることはできないことも、考慮しておく必要があります。「対人ストレス」については、「イライラして、家の人にひどい言葉を使ってしまうことがある」と回答した児童が35%ほどいました。

設問 イライラして、家の人とぶつかってしまうことがありますか。



「生活・学習習慣」の 카테고리では、家での学習について「ほぼ毎日勉強している」という回答がほとんどで、家庭で学習することについての抵抗は少ないと思われます。「自分で計画を立てたり、時間を決めたりして勉強する」「授業の予習・復習をする」という項目では、全国との差が大きいようです。いわば、受け身の勉強とも考えられます。最近「学校の勉強がむずかしくなったと感じる」と回答している児童の割合も増えているようですので、与えられた課題をただこなすのではなく、勉強することの理由をもう一度考え、効率的なやり方も教えてもらうなど、高学年にふさわしい学習習慣を身につけることが求められています。

設問 家で授業の予習や復習をしていますか。



これまでの結果をまとめると、高い学力を持っているにもかかわらず、自分から学習する意義や友だちと学び合う楽しさについての自己肯定値が低いようです。言わば、「学力調査」と「生活・学習意識調査」のバランスです。まず、自分のよさを知り、友だちのよさを見つけることから、肯定感や有用感（人の役に立っているという感覚）を育てていくことが大切だと考えるようになりました。自分に自信を持つことによって、自分の考えを伝える意欲も出て来るものと考えます。

小さなことでもよいので、ご家庭でもぜひ、ほめる、認めることをどんどん進めていただければ幸いです。学校は、授業を通して共に学ぶ意義や、意見発表の場を作り、考えを伝える経験を積ませるなどの実践を、意識して進めてまいります。